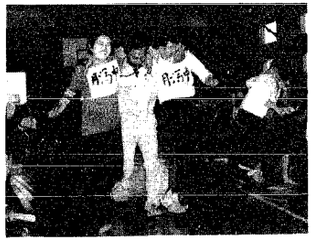
まあ!! 楽しかった ～第十三回村民運動会～

十月十一日に開催されました

昨年来の異状気象が引き続き十月に入っても毎日雨続き。過去の記録では年間で一番雨の降る確率が少ないとのことで東京オリンピックが開かれたことのある日。役員一同さわやかな秋晴れを期待しながら前日来準備を進めて来ましたが、折足悪く朝方から雨がパラつきグランドは最悪の状況、慎重に検討相談した結果、衆議一決急拠中学校体育館での大会となりました。大会場は狭くて選手、参観者は大変でしたが、多勢の方々声援で場内は盛りあがりあちらこちらから笑いと拍手で終始しました。

にわかづくりのプログラムで選手もとまどいがちでしたが十二種目の競技を行って部落チームの腕をきそい合い表彰内容は次のとおりでした。

玉入れ　優勝　月潟チーム
　　準優勝　木滑釣寄新チーム
　　第三位　東長島釣寄チーム
つな引き
　　優勝　曲通チーム
　　準優勝　東長島釣寄チーム
　　第三位　大別当チーム
おめでとう!!

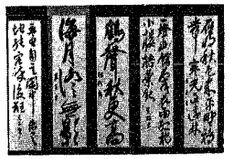

アベック二人三脚

「3人の呼吸もぴったり合いました」

ケツ圧測定

菊花の香り 芸術の秋

十月二十五日、小中学校が歩調をとってひらかれた文化祭、児童生徒が力一杯で発表した力作、素晴しいものでしたね。その中に公民館として数点参加させていただきました。一つは毎月の広報紙に発表されている「あきつ俳壇」です。ここ一年間の発表句の中から選んで短冊にまとめたものでした。次に婦人会員による習字展、三十数点が展示され驚くばかりの力作がずらりと並び、注目をあびていました。次に図工室には観魚会が開かれ長年育てあげてきた「らんちゅう」が大きなたらいの中で姿をきそいあい、次のような成績となりました。


「習字展」

当才魚一席　大橋十四夫　二才魚一席　阿部松夫　親魚一席　小林宏

――――。――――

十一月三日、西公民館で菊花展に行われ、丹精をこめてきた菊花が会場一杯となり、秋の香りがただよっていました。本村の菊造り技術も年々向上し、弥彦神社菊まつりに出品し金銀銅賞に数多く入賞している立派なものとなっています。

「見事な菊の大輪」

審査の結果次のとおりでした。

総合優勝　竹内　恭平
準優勝　野内　ミヨ
第三位　小林　誠

ブロックローテーション 麦・大豆で高収量の成果

富山での研修を終えて　組合長　磯貝　善信

地域農業生産総合振興事業による推進活動の一環として「地域における麦、大豆の生産拡大とその定着化をどう進めて行くか」を課題に11月4日～5日、富山市農協蜷川支所で水田転作におけるブロックローテーションと複作団地の取り組みについて研修を行いました。

午前6時30分に出発した一行は組合員9名と役場、農協、普及所の計12名。午後1時過ぎに到着し富山市農協の桑名常務理事さんの丁重なる歓迎をいただいた後、約2時間の予定で田村営農指導員、蜷川生産組合の土田さんから概要について伺いました。

ブロックローテーション方式により大麦、大豆の複作経営に取り組んでいるのは管内10集落のうち蜷川生産組合のみということでした。この組合は12戸で構成されており、耕地面積は18ヘクタール、一農家当の平均では一・五ヘクタールと少なく水稲単作で都市近郊にあることから市街化が進み農業生産がやりにくくなっているとのことでした。しかしながら生産意欲で他地区の模範でもあるという組合の水田転作においては「当初、個々対応により大麦、大豆を栽培したが、湿害によって収量が上がらず、また圃場条件の差、個人差が大きかった」と当時の模様を話されました。

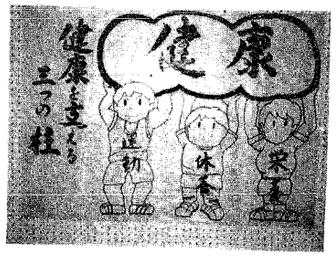
組合では、この湿害を防止し、連作障害を乗り切るには完全なる地続き団地の確保と用水の遮断により排水条件を整備する。その団地は三・五ヘクタールを3ケ所に設置し水稲→大麦→大豆の2年3作の体系により3年間で平等に集落全体を一巡することを決め幾度かの協議を重ね、単なる転作問題にとどまらず、これを契機として将来の「村の方向」へと話し合われ、再出発することで意志確認されたことが今日の成果となったのだそうでした。

栽培は生産組合員の全戸出役による共同作業を原則としているが第一兼農家の4戸が主たる作業の管理を担っており出役に応じて日当及び収益の配分を行うというものでした。複作営農における試算表によれば10アール当りの大麦の所得額が四万円、大豆が五万円、転作奨励金が八万七千円とおおよそ十八万円となり稲作所得をはるかに上廻る経営内容になるそうです。本年産の実績では、大麦は、平均反収で五百四キログラム、大豆では三百キログラムを超える坪刈成績もでており試算数値を上廻る高成果に土田組合長は終始なごやかに話されておられました。

今後、この組合としての課題は転作奨励金をあてにしない複作営農を実践するには、大根、キユウリ、キャベツなどのやさいを含め、更には水稲の共同栽培の実現をめざしたいとのことであり、農業がやりにくい環境下で共同の精神により本来の村の良さというものを今一度とりもどそうと努力されている姿に見習うべきところがあったとつくづく感じさせられた研修でした。

第2回 "健康展" 終る

＝がん，成人病＝ から ぜひ，自分自身で守って下さい



＝家庭の幸せは。家族一人ひとりの健康から。＝

コーナーは四つに分けられています。

健康っていいですね!!

みぞれまじりの天候でしたが、十一月八日(日)、中学校会場で、各種検診状況をはじめとしたポスター・パネル等を中心に目で見て知っていただきたいという観点から一覧としました。

◎健康を支える三つの柱

運動、休養、栄養

現代病と言われる成人病の予防にはかかせない条件です。テーマは

◎働きざかりの健康

各種の統計で、早期発見に検診がどんなに大切かを知っていただき、急増しつつあるがんを掲示しました。これからの季節、脳卒中にも気をくばりたいですね。

◎健康とわが家の食卓

推進委員の方が一生懸命に、献立の説明をされているのが目にとまったと思います。ミソ汁の味、如何でしたか？　うす味？　そんなことなかったですよネ、幼児期からの正しい食事習慣の意義を大切さを教えていたと思います。ふだん何気なく食べている食品の中の塩分、糖分、とり過ぎることで成人病につながる。今からでも注意したいものです。意外と緑黄野菜に人参、かぼちゃが類していることが知られてなかったりでした。どんどん身近かな野菜をたっぷりと食卓にのせたいですネ。主婦にとってもっとも大切なコーナーだったでしょう。

◎育ちざかりの健康

村内の保育園児、小、中学生のむし歯の状況をとり上げ、むし歯は子の病気!!

成人してからの体力づくりにどのように影響するかをお知らせしたコーナーでした。子供達にむし歯がどんなに多いかおわかりいただきましたでしょうか。

「ミソ汁の塩分は？」

◎あなたの体力何才でしょう

適度な運動も成人病予防にかかせない大切な事です。日ごろ心がけたいです。

最後のコーナー、お気づきでしたでしょうか。聴力検査をやっていました。年のせいでとばかり言っていられない。こんな機会はぜひ利用していただき、自分の健康は自分の手で、検診は進んで受けていただきたいものです。

年末の『し尿』汲み取りにご協力下さい

年末（十二月下旬）になりますと、し尿の汲み取り要請が殺到し、汲み取り量も一時的に大量となり、処理し切れない状態ですので、次のようにご協力下さるようお願い申し上げます。

記

一、ふだんの汲み取りが月一回ベースの家は十二月も月一回のペースでお願いします。

二、便槽のし尿が8割以内の場合は汲み取り要請、催そくは、ご遠慮願います。

三、割合に大きな便槽を設置されていて、二ケ月に一回又は数ケ月に一回汲み取っている家庭又は事務所では出来るだけ十一月中に汲み取って頂き、十二月には汲み取らないようご協力下さい。

四、水洗便所の浄化槽は毎月の検査の結果、汚泥量が抜き取り基準数値に近くなっている場合は、汚泥抜き取り清掃作業を年末の忙しい時を避けて出来るだけ十一月中に行なうよう、業者と話し合って実行して下さい。

五、今年の年末も業者は、お得意先の汲み取りには自信と責任を持っていますので信頼しておまかせ下さい。又業者間では混乱に乗じた固定客の奪い合いを行うことのないよう申し合せを行っていますのでご協力下さい。

◎注意願いたいこと

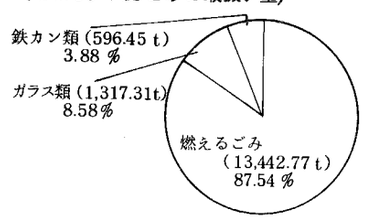
●改良便所は、汲み取った後で水を投入出来なかった場合は、円筒の途中に留ったままの状態となる。それを見て汲み取り方が悪い、と業者に苦情や汲み取りの催足をされる方が多いようですが、不信の場合は便槽を解認してから対処願います。

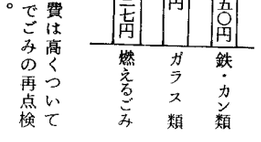
●便槽が空で、円筒の途中に留っている状態の場合は水を投入すれば便槽に送り出せます。

白根衛生センター組合より

皆さん、ごみにする前に今一度、再利用について点検――＊

ごみの扱い高と、処理費の原価を試算すると次のようになります。





このように処理費は高くついております。皆んなでごみの再点検を行ないましょう。

白根衛生センター組合資料より